

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 12 月15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500265		
法人名	株式会社くれせん		
事業所名	グループホームすまいる焼山		
所在地	広島県呉市焼山東1丁目19番47号 (電話) 0823-33-7373		
自己評価作成日	11月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JievsyoCd=3490500265-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸区中野東4-11-13
訪問調査日	平成29年12月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者の生活リズムを整えることを考え、一日の時間の流れ、月日の移り変わり、季節の移り変わりを感じられる環境づくりに力を入れています。その中でご自分にできることは積極的に取り組めるようサポートしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームすまいる焼山は、自然豊かな四季を感じられる閑静な住宅環境に位置しています。利用者が家庭的な雰囲気の中でその人らしく安心した生活が送れるように、一人ひとりに対して担当者が付き、きめ細かなフォローがされています。利用者が毎日笑顔で過ごせるように全職員で研修や、勉強会を重ね、質の高いケアに取り組み、コミュニケーションを大切にしています。第二の我が家として心地よく暮らせる当たり前の暮らしを実践しているグループホームです。

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「自然に囲まれた静かな環境と家庭的な雰囲気作りを心がけ安心して暮らせる施設」を掲げ、実践している。	グループホームすまいる焼山の理念「自然に囲まれた静かな環境と、家庭的雰囲気作りを心掛け、安心して暮らせる施設」をスタッフ会議や引継ぎの時唱和し、日々実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域で行われるお祭りや防災訓練等に参加し交流している	地域の清掃活動、第三団地での地域の運動会に参加し、秋祭りには『やぶ』、太鼓が回って来て賑わっています。中学生の訪問ではソーラン節の踊り、幼稚園児の歌、笑いヨガのボランティアの方、など地域の方々と交流している。第3団地主催の住民の災害時の避難誘導、救出、応急の訓練にも参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通し、自治会や民生員、老人会に情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回開催し、事業所の報告をしている。	2ヶ月に1回開催され、民生委員7名、自治会代表、老人会代表、地域包括支援センター職員、家族、管理者の出席を得ている。様々な議題について意見交換を行っている。ホームの取り組み、状況等を報告、出席者からの地域の情報や提案をサービスの向上に活かされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	呉市担当者とは、各種相談を行い、書類の提出時に相談することがある。	呉市役所保健課、福祉課から情報提供があり、書類の提出・相談等を行っている。他のグループホームとの研修の連絡調整等行われていて協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	契約時の書面による説明と掲示。	事業所内での研修を行い身体拘束はしないケアを徹底している。玄関には施錠しておらず、外出したい人とは一緒に出かけている。スピーチロックに気づいた時には職員同士がその場で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	研修会の開催。		

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会の開催。成年後見制度の必要性があるケースに対応し支援している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時の書類作成。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置。担当窓口を決め対応している。	家族の意見、要望は面会時、電話等で聞き、あれば職員全員で受け止め改善に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回、ケア会議を通して意見交換している。	ユニット会議で職員の意見・提案を聞き、日々の業務での改善点等話し合っている。その場で意見を伝えられない時は、職員の意見箱が置かれていて全員の意見が出され、会議で検討し運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇い入れ通知書面にて提示している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各研修会への参加要請、費用を負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	呉市主催の集団指導研修会、県介護福祉士会主催の研修会へ参加。		

グループホームすまいる焼山

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	自宅訪問を含め、生活環境を確認することと、本人・家族等へのヒアリングを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	自宅訪問を含め、生活環境を確認することと、本人・家族等へのヒアリングを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	自宅訪問を含め、生活環境を確認することと、本人・家族等へのヒアリングを実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者個々の関心や興味を観察しながら生活上必要な作業と一緒に取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族とともに、本人を支えている事を声掛けし、常に連携を取り面会等促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人・知人の面会を歓迎し、再度の来所を促している。	家族の面会は度々あり、知人と一緒に来所される事もある。家族以外の方が来所される場合は、家族に了解を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共用部で過ごす時間を設け、交流を促している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	関係性を大切にし契約の終了時に今後の相談、支援について声掛けしている		

グループホームすまいる焼山

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中にヒントがあるとならえ、本人の意向をくみ取りスタッフが情報を共有し、検討しながら支援している。	日々の生活の中で利用者の会話を聞き、好きな事、喜ばれる事を職員は見つけ、情報を全員で共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	訪問調査、ヒアリングを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	訪問調査、ヒアリングを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケア会議、担当者会議を実施	担当者は利用者、家族の望まれる生活を家族の面会時に話し合い、それぞれの意見や要望を聞き、6ヶ月ごとにケアプランを見直している。入院や状況変化があれば必要なサービスを取り入れて、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌、ケース記録を活用。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人一人のニーズに合わせた計画を立てている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の施設の活用、公園等へ外出し楽しみを見つけるサポートを実施。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に1回、往診を実施し、連携を密に取っている。	月1回の、かかりつけの、内科、歯科による往診で受診している。専門医の受診も対応し、安心した医療が受けられるよう医師との連携体制ができています。	

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回、訪問を実施し、連携を密に取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所中、入院中の情報交換や、退院時の看護サマリの活用。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に書面にて家族に説明。本人の意向、家族の意向を充分にきみ取れる様、話し合う場を設け、支援している。	入居時、重度化指針を説明されている。重度化された場合、家族に医師より説明され、ホームで出来る体制を伝え、再度、本人・家族の意見を聞き、望まれる事を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	勉強会を実施。かかりつけ医、訪問看護にアドバイスを貰っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練の実施。	年2回、消防署立ち合いの基、日中、夜間想定で訓練を行っている。2階からの避難訓練等が行われ、全員の意識向上を図っている。第3団地住民の災害時の避難誘導、救出、応急の訓練にも参加している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉がけが雑になりがちのため、指導を続けている。	利用者のプライドを傷つけない接遇に気を付けている。研修で指導され徹底している。	利用者と長らく一緒に生活するにつれ、親しみを込めての言葉が、つい馴れ馴れしくなる場合もあり、職員は振り返り等行い注意をしていく事を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	定期的に本人の意見を個別に聴ける様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	生活リズムが崩れない程度を見極め、本人の意思決定を支持している。		

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類の確認や、定期的な訪問美容の利用を促している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者が、食事の準備に関われる様、支援、声掛けを行っている。	旬の食材を使い、季節の行事に合わせた献立、個々の食べやすい工夫、利用者の好みに合わせた、楽しい食事になるよう提供している。月1回の外食（ホテル、和食店）や、寿司屋さんが来所しての握りずしの提供は、利用者の楽しみになっている。食事の準備、片づけのできる方は手伝われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	計画的な献立と、安全な食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアと、訪問歯科を利用。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中と夜間の対応方法を変えたり、ポータブルの活用を行い、支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛けをし、出来るだけ自然な排泄が出来るようトイレでの排泄を支援している。夜間は居室のポータブルトイレの使用を誘導し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の確認と水分補給、運動を促し、かかりつけ医に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	予定を組んで対応し、体調や気分に配慮して対応している。	入浴は利用者の体調を確認し、1週間に2回とし、出来るだけ気持ちの良い気分で入られるよう対応している。併設のデーサービスの大浴場、リフト浴の使用もあり、楽しい入浴になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	環境の整備と声掛けを実施。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医、薬剤師、訪問看護師と連携し対応している。		

グループホームすまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の趣味嗜好をくみ取り、他の利用者も楽しめる様、対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や外食、お花見等に出かけている。	天候の良い日、近隣の散歩、家族の協力で買い物・外食・法事に出かけられている。ホームからは花見、筆の里工房、音戸大橋、外食、買い物、ドライブで気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人用のお金を預かり対応、一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	郵便物の受け渡し支援や、手紙のやり取りを支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁面に、制作物を設置し、季節感を出している。	リビングには季節に合わせた飾りつけがされ、テーブルを囲みテレビを見たり、談話したり、リハビリ体操をしたり皆さん一緒に生活感ある場で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用部分は、時折模様替えし、対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人に合わせ、家族に調整をお願いしている。	自宅で使われていた家具、仏壇、家族の写真や利用者の作品が置かれ、温度、湿度計で快適な設定がされ、安心して過ごせる居室になっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	調理や作業に皆が取り組みやすい環境を提供。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームすまいる焼山

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームすまいる焼山

作成日 平成 29 年 12 月 15 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	進行する認知症状に対応が難しくなっており 試行錯誤している	利用者にとってより良いケアを実践していく	勉強会の開催、情報共有を密に行う	3ヶ月
2	36	親しみのある声掛けが、馴れ馴れしい言葉になる	尊厳のある言葉かけを行う	接遇の外部研修に参加し、施設内でも勉強会を行う	3ヶ月
3	19	家族と楽しめるような行事の開催ができていない	家族を招待するような行事を開催する	食事会等を企画していく	12か月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。